

地域活性化部会講演会

子どもの声が響く豊浦町へ

—移住・定住・空き家活用—



高野雅夫氏



日時

2025年2月15日(土)
10:00~11:30

会場

川棚公民館 2階講堂

講師

名古屋大学院環境学研究科教授・博士(理学)

高野雅夫氏

講師のプロフィール
詳細は裏面に

下関市豊浦町出身、室津小学校、豊洋中学校、豊浦高校を経て名古屋大学で博士号を取得。木質バイオマスエネルギーやマイクロ水力発電などの再生可能エネルギーの技術開発とそれらの普及を通じた里山再生について農山村をフィールドとして研究を行う。

対象

空き家問題や地域活性に興味のある方なら、どなたでもご参加いただけます。(無料)

概要

豊浦町は他の農山漁村と同様、人口減少・高齢化が進み、このままでは集落がどんどん消滅していく情勢にあります。一方、都市から田舎へ移住する若い世代が増えてきて、適切に取り組めば移住者を増やし、まちづくりの担い手を確保することが可能です。全国の田舎の取り組みを紹介しながら、今何をやれば良いかを考えます。

主催・問い合わせ

豊浦地区まちづくり協議会

豊浦町大字川棚 7112-4 (豊浦コミュニティ情報プラザ内)
電話:083-227-2744(FAX 兼用) 月・水・金 10:00~14:30
mail:toyoura-machidukuri@chic.ocn.ne.jp



講師紹介

高野雅夫 名古屋大学大学院環境学研究科教授・博士(理学)

山口県下関市豊浦町出身、室津小学校、豊洋中学校、豊浦高校を経て名古屋大学で博士号を取得。木質バイオマスエネルギーやマイクロ水力発電などの再生可能エネルギーの技術開発とそれらの普及を通じた里山再生について農山村をフィールドとして研究を行う。

再生可能エネルギーを普及させるには豊富な自然資源が存在する農山村が持続しなくてはならないものの、人口減少と高齢化によって集落消滅が進む事態に直面していることを知る。そこで、愛知県や岐阜県の農山村部を主なフィールドに、若者の移住支援を中心にした農山村地域再生の研究および実践に取り組む。移住支援のため、木を伐りだすところからはじめて皆で住宅を建設するプロジェクト「千年持続学校」の企画運営など実践的な取り組みを行っている。

2013年に立ち上がった豊田市おいでん・さんそんセンターの移住・定住専門部会長として行政や住民とともに定住支援の方策について調査・提言活動を行う。2014年4月、大学と社会との連携を進める名古屋大学・臨床環境学コンサルティングファームが立ち上がり、その部門長として、自治体や企業、NPO に対して持続可能な地域づくりのためのコンサルティング活動を進めている。

2013年には国連の専門家会議で日本の里山がもつ持続可能な社会づくりについての意義について報告した。自身も岐阜県恵那市の山村に移住して薪風呂、薪ストーブの暮らしをしている。

主な著書

高野雅夫『中山間地域を存続させるための移住・定住・空き家活用取り組み実践ガイド』
おいでん・さんそん、2024年

高野雅夫『自然(じねん)の哲学—おかねに支配された心を解放する里山の物語』
ヘウレーカ、2021年

高野雅夫編著『持続可能な生き方をデザインしよう』
明石書店、2017年

高野雅夫『人は100Wで生きられる』
大和書房、2011年